

体験博物館
千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年未年始（2021年12月26日～2022年1月1日）
臨時休館日 2022年1月5日・2月8日
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
()内は20名以上の団体料金

瓦 版
大 木 戸

Kawaraban OKIDO

Vol.67

2021年（令和3年）9月30日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/>

令和三年度屋外展示

「千葉の民俗芸能」

「民俗芸能」という言葉を聞いて皆さんはどのようなものを思い浮かべますか。お祭りの時のお囃子でしょうか。地域の人が参加している踊りでしょうか。民俗芸能は、地域社会や共同体の中の祭礼や行事に際して行われる特別な舞や踊り、そして、演技などで、住民の信仰や風俗・習慣と結びつきながら伝承されてきました。

千葉県内においても各地域で古くから様々な民俗芸能が行われてきており、地域の人々の生活と密接に関わってきました。神社で行われる神楽には、神話を題材に仮面をつけ手に物を探って演じる採物神楽、湯釜でたぎらせた湯を使う湯立神楽、獅子頭を被り二人立ちで悪霊を払う獅子神楽が見られます。また、華やかな衣装で歌や踊りを行う風流系の芸能も県内各地で見られ、念仏踊、小唄踊、風流獅子舞（県内では三匹獅子舞、かつこ舞とも呼ばれます）などが見られます。このほか、動物に扮した者が高い柱に上って曲芸を披露するつく舞、大漁節や宴席での歌、中央から伝播し定着した能や歌舞伎があります。また、神楽や風流などには、声や楽器で舞い手を誘い込み、調子に乗せ、舞の雰囲気を作るお囃子も見られます。

や市町村の無形民俗文化財を取り上げます。

第一章では、千葉市登戸にある登渡神社に伝わる神楽囃子（千葉市地域文化財）を取り上げます。この神楽囃子は、深川囃子の指導を受けた人が明治時代に子供囃子連を育成したことが始まりとされています。途中解散となりましたが、のちに再結成され、今日では登渡神社の例祭以外にも様々な場所で積極的に上演活動を行っています。



登戸の神楽囃子
(登渡神社登戸神楽囃子連蔵)

第二章では、東金市北之幸谷にある稻荷神社の氏子を中心に伝わる二人立ちの獅子舞（県指定）を取り上げます。毎年二月、十月、十一月に北之幸谷の稻荷神社を中心に獅子舞が奉納されます。十月の秋祭では高さ十メートル余りのはしごを上りながら獅子舞が舞います。

会場：小間物の店・総屋

会期：令和3年10月2日（土）

令和3年11月23日（火・祝）



北之幸谷の獅子舞
(東金市教育委員会提供)

第三章では、古道鎌倉街道沿いの市原市中高根にある鶴峯八幡宮に伝わる十二座神楽（県指定）を取り上げます。この神楽は現在、鶴峯八幡宮の秋季大祭に奉納される神楽で、十二の演目によって構成されているため「十二座神楽」と呼ばれています。



鶴峯八幡の神楽
(鶴峯八幡宮十二座神楽保存会提供)

これらの内容について、その一部を実演や映像で、地域に伝わる芸能の有り様をお伝えします。併せて使用する面や採物、楽器などを展示し、厳粛で躍動感あふれる「千葉の民俗芸能」の一端を紹介します。

(商家グループ 高原)

農家

「青刈り」

房総のむらでは、毎年八月中旬に館内の田で栽培している「ヤマトニシキ」という品種の稲を青刈りし、その年の十二月に上総・下総・安房のそれぞれの農家で、これらの地域に特徴的な「お飾り作り」の実演・体験を行っています。

この「青刈り」とは、年の暮れに作る正月飾りなどに使用するために、穂が実る前に稲を刈り取ることです。

そこで今回は「青刈り」とそのワラで作られる注連縄しめなわに込めた人々の思いについて紹介します。



青刈り風景（上総の農家）

現在では、ほとんど見られませんが、かつては、注連縄・注連飾りなどを製作・販売する人々は、これらを製作する上で最適なワラを確保するために、丈の長くなる稲（長さ一二〇センチ以上のもの）の品種を栽培し、前述した通り、穂が実る前の茎が青いうちに刈り取りしていました。

ただし、一般の農家ではものづくりに最

適な質の良い品種を栽培していたわけではなく、あくまでも米の副産物としてその年に収穫されたワラの中から用いられた。

また、稲ワラは、それ自身が燃料や飼料として有用ですが、すぐったり打ったりすることで繊維にしなやかさや強靭きょうじんさが出て、これを綯なう・編む・織る等の加工を施すことで様々な生活用具を作ることができ

ます。

米作りをする農家にとって稲ワラという

素材は、

- ・最も身近なもの
- ・豊富な量の材料
- ・ものづくりとして優れている

という利点があります。このことが多くの祭祀や生活用具に使われていた理由です。

現在では、日常生活でワラを利用する機会が激減し、正月飾り等もホームセンターで手軽に購入できる時代となりましたが、是非当館の「お飾り作り」を体験して頂き、コ罗纳収束の願いととも「ワラ」という素材に注目してはいかがでしょうか。

（農家グループ 鈴木）



天日干し風景（安房の農家）

風土記の丘資料館

「淡紅色の勾玉作り」

始めました

昨年から始まった風土記の丘資料館大規模改修工事は、予定どおり順調に進んでいます。

展示作業については、工事終了後に本格的に行うこととなりますが、現在は管理棟二階の事務机に向かって下準備の日々を送っているところです。

体験演目については、展示準備作業の合間の土日祭日を中心に実施していますが、その内容については、前回の本誌で報告したのと同様で、「勾玉作り」、「里山観察会」、「子ども里山観察会」、「建物ガイドツアー」、「遺跡ガイド」、「考古学講座」、「野鳥観察会」の七演目を実施または予定しています。この七演目の中で、一番長く資料館で行ってきた演目が「勾玉作り」です。

「勾玉」は大昔より愛されてきた装身具の一つですが、神秘的な形が現在でも多くの人々の興味をそそるようで、人気演目と



紅白勾玉

なっています。石材には長年白色の滑石を使用してきましたが、体験者から勾玉に色を付けたいとの要望がここ数年上がるようになり、この要望にお答えするため、石にペイントする方法も考えましたが、石本来の持つ色味を生かした方がより神秘性を持つのではとの思いで、いくつかの色の滑石の中から、白色と対照色である淡紅（ピンク）色を新たに取り入れて今年度より実施しています。

現在までのところ、体験者の方に選ばれ白とピンクの割合は半々で、評判はまずまずのようです。

紅白の組み合わせは古来より日本人に好まれてきた組み合わせです。皆様も是非、白色、紅色の勾玉を作製し、セットでお持ちになってみてはいかがでしょうか。

（風土記グループ 野口）

商家 細工の店

「房州うちわ」

江戸時代になると竹細工や紙漉きが盛んになり、うちわが大量に作られ、庶民の間にも広く普及していきました。浮世絵の美人画には、うちわを持つ女性の姿が多く描かれていますが、うちわは夏の風物詩であり、装飾品の一つでもありました。

中でも「房州うちわ」は、千葉県を代表する伝統的工芸品で、京都の「京うちわ」、香川県丸亀市の「丸亀うちわ」とともに日本三大うちわの一つと言われています。

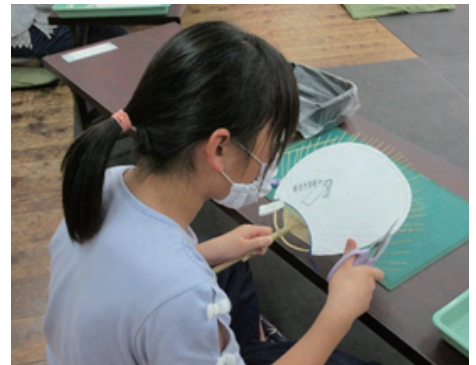
房州は千葉県の安房地方を指しますが、

このうちわには「房州女竹」と呼ばれる竹を使用します。この地方の女竹は節間が長く、柔軟性に富む良材であったため、うちわの骨を作るのに適していました。また、一本の竹からうちわを作るため軽量で、竹の素材を活かした「丸柄」と呼ばれる持ち手が特徴的です。うちわの骨の部分は、柄とは反対の先端部分を四十八〜六十四本に割り「穂」と呼ばれる骨を作ります。直径一・五センチ程の竹を細く均等に割いていくことは至難の技で、さらにその穂を一本一本糸で編んで作る半円は「窓」と呼ばれる美しい格子模様が魅力です。このような繊細で巧みな技によって、房州うちわならではのしなやかで柔らかい風が生まれます。

細工の店では、南房総を拠点に活動する太田美津江先生を講師に迎え、毎年八月に房州うちわの体験を行います。この体験では、窓ができたうちわ骨の表と裏、それぞれに紙を貼り付けていきます。うちわ紙は、木版刷りの技術を用いて和紙に絵柄を摺ったものを使います（好きな布地を持参し、貼り付けることもできます）。自分だけの房州うちわ作りは、子供だけではなく大人の方にも好評です。

二月には「柄から作る房州うちわ」も実施します。こちらは上級者向けで、女竹を割り骨を作るところから体験できます。ぜひこの機会に房州うちわの歴史や文化に触れてみませんか。

（商家グループ 水島）



まわりの骨の両面を和紙を貼る。余分な紙を削ぎ落とす。型にあわせて縁をつけ、切り落とす。



完成した房州うちわ

広報・普及グループ 「博物館実習」

房総のむらでは、年に一度、学芸員資格取得のための博物館実習を行っています。本年度は四大学から四名が参加し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、八月二十五日から三十一日にかけて実習を行いました。

本年度の実習内容は以下のとおりです。

- 一日目…施設概要説明／施設見学①
- 二日目…施設見学②／資料管理について
- 三日目…文書資料の目録作成
- 四日目…体験実習（商家・農家）
- 五日目…広報事業について／パネルの作成
- 六日目…自宅研修（レポート作成）
- 七日目…民俗資料の取り扱い

当館は屋外型の博物館のため、実習内容の半分は屋外で行います。実習生たちにとっては慣れない環境であるため、熱中症や怪我などに細心の注意を払いながら実施することを心掛けています。

施設見学では、二日に分けて有料エリアと無料エリアを回ります。房総のむらは五十一ヘクタールという広大な敷地を有しているため、各施設の説明だけでなく、施設や里山の管理、災害時の被害なども踏まえながら見学しました。



文書資料の目録作成

三日目には、明治時代の文書資料の目録作成を行いました。中には、大学の講義で古文書を読み慣れている実習生もいたため、順調に読み進めていたことが印象的でした。



民俗資料の取り扱い

最終日には、民俗資料の取り扱いというテーマで、土蔵で保管されている七夕馬や木製資料の整理とクリーニングを行いました。実際に資料を取り扱う前に、文化財害虫やカビといった資料に被害を及ぼす要因を具体的に知ってもらい、目視で資料を確認しながら整理しました。博物館によって資料の管理状況は異なりますが、資料をよく観察し、材質の特性や資料の現状を理解することが重要です。細かさを要する作業でしたが、適切な取り扱いができていました。

暑い中でしたが、実習生のみなさん、一週間お疲れ様でした。

（広報・普及グループ 長谷川）

哺乳類調査について

房総のむらで実施している「哺乳類調査」について、現時点での調査結果を報告いたします。

現在、実施している調査方法は、センサーカメラの設置と目撃情報の収集です。今回はセンサーカメラの調査報告をしていきたいと思います。

センサーカメラは、電源を入れておくだけで静止画や動画を撮影することが可能です。動物が出没しそうな場所付近の木に巻き付けるだけで簡単に設置することができます。

現在までに撮影されている動物のほとんどはタヌキです。地面の匂いを嗅ぐ様子や水を飲む様子など、様々な様子が撮影されています。その他にも、ウサギ・アライグマ・イタチ・ハクビシン・リス・ネコなど多くの動物を確認することができました。

館内には、多くの動物が暮らしており、その痕跡を確認することができます。ご来館の際はぜひ痕跡を探しながら探索してみてください。

(広報・普及グループ 高橋)



房総のむらで撮影されたタヌキ

「千葉の行商」

昭和二十四年の青果物統制の解除を契機に、行商は昭和二十年代後半から三十年前後にピークを迎えます。七十キログラム以上もある荷物を担いだ女性たちの集団が、現金収入を得るために電車で東京へ向かいました。農家以外の人も行商に出るようになり、違法でありながらも一番儲かる米を野菜の中に隠し持って行ったと言います。

その後、流通の発達や女性の職業の多様な要因となり、行商は減少に向かいました。それでも軽トラで行商に向かう人や、暮れになるとかつての顧客相手に餅を販売している人もいます。

「母が行商で家を建てたんだよ。」と冗談めかして言う人の話を聞きながら、戦後の厳しい時代を生きぬいた女性の強さを感じました。

トピックス展「千葉の行商」実施に向け、調査・研究を進めています。情報をお持ちの方は是非ご協力ください。

(商家グループ 宮内)



行商かご (個人蔵)

ご来館の際の注意事項

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用、手指の消毒、検温、入館確認票の記入にご協力いただいております。また、定員などを縮小して体験を実施しており、早めに受付が終了する場合がございます。なお、混雑が予想される場合は、入場者の分散化や入場制限を行う場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◇編集後記◇

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止となりましたが、十月二日(土)から、屋外展示「千葉の民俗芸能」を開催します。安心してご覧いただけるよう、感染予防対策を行って参ります。皆様のご来館をお待ちしております。

(広報・普及グループ 久保田)

令和3年度 下半期のイベント

- 屋外展示「千葉の民俗芸能」
10月2日(土)～11月23日(火・祝)
- ユニセフ・ラブウォーク in 房総のむら
11月23日(火・祝)
- 伝統文化入門
12月4日(土)
- むらのお正月
令和4年1月2日(日)・3日(月)
- 伝統文化入門
令和4年1月15日(土)
- 房総座「柳家三三落語会」
令和4年1月30日(日)
- ビックリひなまつり
令和4年2月12日(土)～3月6日(日)
- さくらまつり
令和4年3月26日(土)・27日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合がございます。